

■部会名：地域産業部会

■部会長（有識者委員）：河西 邦人 委員

■市民委員：島本 和夫 委員、志水 有希 委員、前後 稔 委員、
寺岡 秀一 委員、峯田 智也 委員

■概要

1 今回の進め方について

河西部会長：前回の部会で、『6次産業の推進』と『地域流通のネットワーク化』と『江別市の情報戦略』の3つの戦略テーマについては確認が終わった。今回は残りの『観光資源のネットワーク化』と、前回の部会で新たにみなさんから意見をいただいて追加で作成した『江別企業の活性化支援』の2つについて議論する。

2 戦略テーマ提言について

[戦略テーマ：江別企業の活性化支援]

河西部会長：前回みなさんから江別企業の活性化について色々なご意見をいただき、それをまとめて作成したものである。戦略テーマ実現への方策の欄を中心に、みなさんのご意見が漏れなく記載されているかどうか、また新たに追加したいことがあればご意見をお願いしたい。

○ この内容だと具体的なことが見えてこない。方向性はよくわかるのだが、かねてから申し上げているとおり、今あるものをどう活かすかという点にもっと力を入れた方がよい。短期的にも役立つし、今あるものを壊して新たにつくるわけにもいかない状況である。活性化が大事だということはわかるが、具体的にどうしたら活性化できるのかと言えば、今あるものを掘り出して、良いところ・悪いところを把握して具体的にやっついていかないと、この内容を市長に提言しても理解してもらえないのではないかと。私としては今ある産業や施設をもう少し掘り返した方が良いと思っている。他市との比較を見ても江別の産業は貧弱である。農業は江別の一大産業だという意見があがっていたが、事業所数の構成比をみると1.1%と非常に少数で、実際にはかなり少ないのだと感じた。建設業はやはりウエイトが高いが、こういったところが全然目立ってないので、このあたりをもう少し強調した方がよい。事業所数や従業員数が多いことが価値だとは言わないが、やはりバランスよくテーマをあげていかないと、具体的に市も動きがとれないと思うが、部会長はどうお考えか。

河西部会長：私は逆だと考えている。総合計画に関してはある程度方向性を打ち出すものであり、具体的な方策は年度ごとの事業計画の中で所管する経済部が詳細に状況を把握しながら考えるもので、我々市民会議と行政の役割分担だと考える。また詳細に具体的なことを記載すると膨大な量になり、総合計画に馴染まなく

なってしまう。

- 会議を重ねる度に行ったり来たりしていると感じる。ここまでまとめていただいたことには敬服するが、パッと見てわかりにくい。我々の意見をすべてまとめてつくっていただいたということは重々承知しているが、具体的な目に見える取り組みからやっていくべきだと思う。

河西部会長：具体的にどのように記載内容を変えれば、おっしゃるような提言書になるかご意見をいただきたい。

- 江別の特徴、江別でなければできないこと、さすが江別だな、というものを大きく打ち出すことがカンフル剤になると思う。江別は札幌と同じかそれ以上に歴史がある。例えば屯田兵がつくったまちであること、川があって道路がない時代にも川を利用した歴史があることなどで、歴史を振り返ってみたらどうかと思う。いかに屯田兵が江別をつくっていったかという先人の苦勞を知って、それを武器にした方がよい。江別には札幌に負けないものがあると思う。具体的にどう書けばよいかという曖昧な話しかないが、バスで巡回してまわるようなものはどうか。市民もそうだし市外の人にも、もっと江別のことを知ってもらいたい。

河西部会長：今おっしゃられた観光の話は『観光資源のネットワーク化』の戦略テーマの中で、市内の観光資源をネットワーク化して、その中でバスツアーを実施するという内容を具体的に示してある。この戦略テーマでは、江別の企業をどう活性化するのか、その中でどう雇用を増やしていくのかという点についてご意見をいただきたい。

- 短期のところに記載してあることは少し抽象的であり、みんな既にわかっている共通認識として持っていることである。この一歩先まで踏み込んで具体的に記載した方がよいのでは。戦略テーマ実現への方策、というほど詳細な内容になっていないのではないか。

河西部会長：具体的にどのような内容を追加すればよいか。

- 例えば短期のソフトに「江別市と江別商工会議所が連携し、ワンストップで市内企業等を支援できる体制を構築する。」とあり、様々な団体をまとめていくというところはわかるが、実際にどのようにまとめるのか書いていない。これだと今までと同じように、まとめたいけれど難しい、で終わってしまう。もう一歩踏み込んだ、実際に実現するまでのロードマップはどの段階でつくるのか。この市民会議の段階では必要ないのか。

河西部会長：市民会議で提言するのは総合計画に関してであり、個別具体的な部分は総合計画をもとに行政の所管が考えることである。

- この様々な団体を支援できる体制の構築というのは、『江別企業の活性化支援』という大きな戦略テーマのサブテーマのようになっていて、団体を支援する体制の構築のための短期・中期・長期的な取り組みというところまで考える必要があるのではないか。短期のところに書かれている一つ一つのことを実現するために、さらに短期・中

期・長期的に取り組まなければならないことが出てくるはずである。この内容で提言して本当に市の方で具体的に取り組んでくれるのか。

河西部会長：そもそもこの市民会議で議論された戦略テーマが、必ずしもそのまますべてが採用されて実現されるかどうかはわからない。今我々が議論しているのは総合計画というもので、その下に施策があり、さらにその下に事業計画があって、行政の所管する部署が中心になって事業計画を立て、予算化して取り組んでいくことになる。

○ 我々は助言やプランニングだけして、あとは市に任せるという立場ではなかったはずである。市役所が我々市民の声をよく聞いて足りないところは補うというように、二人三脚というつもりで参加していた。たたき台だけつくってあとは市役所にお任せと投げ出してしまっていていいのか。このように参加した以上は、今回で終わらせるのではなく、これが2年後・3年後に具体的になるまで見守りたい。総合的な骨組みだというのはわかるが、もう少し具体的にならないものか。他の委員の方のご意見も伺いたい。

河西部会長：再度伺うが、具体的にこれを一步進めるものとして何を追記すればよいか。

○ どこまで具体的に踏み込むべきかが明確ではなかったもので、それはまだ考えているところである。ここに書かれていることは、今までも指摘されてきたが実現できていないことばかりで、何も新しいことが書いていない。市民の立場で提案をするので、今まで行政が考えても様々な事情でうまく進められなかったことを、少しでも前進させられるようなヒントになることが書ければよいと思う。今書いてある内容から何か一つでも新しい刺激になる提案を一步踏み込んで書けないか。具体的にどんな提案を入れるかは簡単に今すぐ言えることではないので、議論が必要である。今日はそのことを議論するのではないのか。

河西部会長：提言書のたたき台を読んでいただいて、足りないところや新しい視点があれば付け加えて修正していく。

○ どんな状態にしたいのかの欄に、市により多く納税してもらうために市内で新たな事業や企業が創出される状態にしたいとあるが、戦略テーマ実現への方策では今ある企業の拡大や連携だけに焦点を当てているような気がする。新しい事業や企業が創出されるための方策が何か一つでもあれば良いと思う。市内の企業は意外と多いが、他市に比べると少ないので、その数を伸ばすための支援策を加えた方が良い。

河西部会長：例えば創業支援といったことか。

○ おそらく一番簡単なのは企業誘致ではないか。

○ 部会長が作成した提言書は上手くまとまっている。市民会議としては、すべての部会からの提言を集約して、関連するものも出てくるのでそこを束ねた上で市に提言する。具体的にどうするかは、市が所管を決めて今後の計画に照らし合わせて優先順位を決めていく中で考えていくことである。そしてその次に、市だけでできるのかということになる。絶対にそれは無理で、他の機関を設けてそこと連携して検討していかない

限り事業が進んでいかない。そういうことが様々な分野で出てくるはずである。それを次の段階で実現してもらうために、我々の提言によってこれまでの取り組みが甘かったということを市に認識してもらいたい。認識していても何らかの事情でできないということはあると思うので、この提言以上に具体的なことに踏み込んでしまうと、我々も責任を持たなければならないが、それは無理である。提言書の内容を1つずつ見ていくと、今までの我々の議論はすべて盛り込まれているので、このレベルの記載でよいと思う。これ以上具体的にするとキリがない。

- 提言書は上手くまとまっている。もう一步踏み込むということに関しては、例えば江別市と江別商工会議所が連携し、ワンストップで市内企業等を支援できる体制を構築するにしても、どう具体的に支援するのかということもそうだし、体制を構築した後どうするのかという議論もしなければいけないのではないかと。きちんと活用していかないと、単なる絵空事で終わってしまってもったいない。
- 北海道新幹線が今後人や物の流れを変えらると思う。何十年も先の話ではあるが、観光の面から見ても、もう何年も前から民間企業も動き出しているし、その辺りのことについても何か記載ができればよいと思う。

河西部会長：観光については後程『観光資源のネットワーク化』の戦略テーマのところで議論する。

- 具体的にどうするかと言えば、財団方式で各企業が痛みを分かち合って会費を集める。何をやるにしても先立つものはお金である。そして研究財団のようなものをつくって、江別を活性化するために専門家を集めて取り組む。商工会議所や商店街、工業関係者、観光関係など様々な人たちを集めれば、総合的に議論が弾むと思う。

河西部会長：産業活性化のための振興財団をつくるという考え方か。現実問題として、財団をつくるのは難しいかもしれない。その考えを具体化するのであれば、例えば江別の活性化を考えるまちづくりのNPO法人をつくって、そこで議論する形にすれば、市民等が会員になって会費を払って組織を支えながら、一緒に事業をやっていくことが可能ではないか。財団となると、まず江別市が出損しなければならないし、一般市民はなかなかお金を出せない。それであればNPO法人か、出資という形をとって株式会社とするかである。

- 会議をして市民の意見をまとめたという証とするために、NPOなり株式会社なりを立ち上げるのはどうか。
- 短期・ソフトの「江別市内にある産業諸団体間、企業間の交流」の部分に、具体的に市内にある団体の名称を括弧書きでもよいので入れてはどうか。それぞれの団体が団体の中で各産業に合わせて様々なことを行っている。そこに対し、新たな商取引や新商材の開発、販路拡大といった名目の支援を行政としてやっていく、という方がより具体的でわかりやすい。

河西部会長：なぜ具体的な名称を入れなかったかというのと、市内にはたくさんの経済団体があるので、名称が入らなかった団体が出るのはまずいと考えた。

- 行政として把握しているはずなので、具体的な団体名を入れるべきである。ここは曖昧にせず、はっきりさせるべきである。私が具体性が足りないと感じていたのはこの部分である。

河西部会長：では「江別市内にある産業諸団体間」の産業諸団体を明記することにする。

⇒（事務局）産業団体というと幅が広いが、どこまでの範囲を想定しているのか。

- ここでは江別の企業を活性化することが目的であるので、市内の企業の集まりを想定している。事務局から候補を提示してもらえれば、その中から我々で選定する。

⇒（事務局）商工会議所、中小企業家同友会、工業団地組合、建設業組合などか。あとはどのような団体を想定しているか。

河西部会長：商店街振興組合などもそうではないか。だが、具体的な組織名を入れてそこを支援するというのは、総合計画ではなく次の段階ではないか。

- どこまで入れるかというのは考えなければならないと思うが、具体的な名称を入れることで緊張感が出る。中小企業振興条例（仮）を制定することもそうだが、なぜわざわざ条例をつくる必要があるかという、中小企業が地域にとっていかに大事かということが理解されていないから、それを分かってもらうためである。そういう意味で団体の名称を入れるべきである。「産業諸団体」という言い方よりは「経済団体」という方がより正確かもしれない。

- 短期のソフトの「雇用創出につなげるため、求人求職の情報提供、マッチング、インターンシップ、トライアル雇用への支援を行う。」の部分は、誰が誰に支援することを表現しているのか。例えば、求人求職の情報提供を行政がやるわけではないと思うが。

河西部会長：求人と求職を結び付けるのは、ハローワークや民間の企業等である。

- 大学の就職課などもそうで、求人の情報が集まっている。

- 今は求人倍率がかなり低く、職が無い状態である。それをこのような雇用創出という一般的な提案だけで解決できるのか疑問である。

- 求人求職の情報提供自体はハローワークや大学の就職課などで行っているが、その活動が何か問題があってもうまくいっていない。それを有効にするための方策を一步踏み込んで提案すべきである。現状、それらの組織がバラバラに情報提供やマッチング、インターンシップ等を行っているのを、連携させて有効に活用するよう行政としてコーディネートする、という提案があればよいのでは。

- 農業は退職後でもできるし、人手不足で求人も多いのではないかと。

- 農家戸数も減っており、担い手不足という側面はある。農業生産法人も増えており、昔ながらの農家よりは働きやすい環境にはなっている。

河西部会長：農業生産法人等で人手不足だった場合は、どのように求人するのか。

- 農協でパートを何百人か雇用しており、そこをお願いしてきてもらう形で、個々の農家で求人はしていないと思われる。農家で働いてみたいという人はいるかもしれないが、マッチングはできていないのが現状ではないか。

河西部会長：であれば農業分野の雇用については、例えば農協が中心となってマッチングを行うという形が考えられる。

- 人手不足の業界を発掘すれば雇用創出になるのではないか。
- 雇用創出するためにハローワークのようなものをもう一つつくっても意味が無い。先ほど述べたように、求人情報が無いわけではなく点在していることが問題で、既存のものを有効に機能させるためにどうしたらよいかを議論した方が良い。江別企業の活性化支援であるから、一番大事なのは江別の企業に有能な人材をいかに入れるかということである。既存のものを有効に機能させるために行政が行う支援としては、点在している情報を1つにまとめることである。ハローワークに情報は集約されているが、江別市内だけに限定した情報ではないため、江別の企業にたどり着くのが難しい。

河西部会長：個別具体的な解決策を記載するのであれば、それを裏付ける情報を収集してしっかりと考えた上で提案しなければならない。そこまで我々市民会議で行うのは難しいので、どうしても抽象的な文言になってしまう。

- 雇用施策は今までも厚生労働省やハローワークを中心に行政がやっているが、縦割りでバラバラである。それを一体的に行えるように誰かが結び付けなければ、本当に効果的な雇用対策にならない。そういうネットワークを構築して、雇用に関する支援策を連携させて地域の企業に必要な情報提供や支援を行っていく、という記載の仕方がよい。短期のソフトにある「ワンストップで市内企業等を支援できる体制を構築」は雇用に関する支援体制についても言えることではないか。

河西部会長：この「ワンストップで市内企業等を支援できる体制」というのは、その後に記載しているマーケティング等の支援や雇用に関しても同様という考え方で記載している。

ここまででご指摘いただいた点についてどう修正していくかだが、まず一つ目は「産業諸団体間」について明確に団体名を補記するということである。経済部で所管していて、江別市内の経済団体として認識されているような団体は何団体くらいあるか。

⇒（事務局）商業関係だけでもかなりの団体数があり、それ以外の団体については所管ごとに把握している状況である。

- 二つくらい例として挙げて、他は「～等」でよいのではないか。あまり具体的な団体名を挙げると、漏れがあったときに問題がある。戦略テーマ実現の方策として具体化すべきというのはそのとおりだが、固有名詞等の使用はできるだけ避けるべきだと考える。雇用創出についても、これ以上具体化しなくてもよいのでは。我々市民会議からの提言の段階では、全体的なニュアンスを伝えられればよい。

河西部会長：では部会として確実に記載しておくべきと考える団体名だけを入れておいて、その他は「～等」として記載する。また、「産業諸団体間」は「経済団体間」に修正する。記載する団体名としては、企業の活性化に関わる団体ということで「江別商工会議所・北海道中小企業家同友会・江別工業団地協同組合・商店

街振興組合・江別建設業協会」とする。

雇用に関する部分の記載についてだが、函館市などでは雇用に関わる連絡会議というのを商工会議所や函館市役所などいくつかの団体でつくって、意見交換や情報交換などを行っている。それを例として、たとえば江別雇用連絡会議というような会議体をつくり、市内の経済団体や大学、ハローワークなど雇用に関わる機関が集まって情報交換や意見交換ができる場をつくる、という提案にしてはどうか。

- その雇用連絡協議会のような組織で、雇用創造促進協議会という組織が江別にもあるのではないか。

⇒（事務局）市やハローワーク等で構成する雇用創造促進協議会という組織があり、新卒者に対する取り組みは行っている。

河西部会長：ではその雇用創造促進協議会を母体にして拡充し、新卒だけでなく女性や高齢者を含めた対応をするという内容の方が良い。「江別市内の企業と、若者、女性、高齢者といった貴重な人財を有効に結びつけ、企業の発展の原動力とし、雇用創出につなげるため、「江別市雇用創造促進協議会」を拡充する。「江別市雇用創造促進協議会」では江別市内の雇用にかかわる諸機関（ハローワーク・行政・経済団体・大学等）が参加し、求人求職の情報交換、企業と人財のマッチング、インターンシップ、トライアル雇用といった雇用創出支援事業に対して支援を行う」という提案とする。

[戦略テーマ：観光資源のネットワーク化]

河西部会長：この戦略テーマに関しては、部会や全体会議で具体的な意見が出ており、具体的な地名や施設名などが入っているものもある。これまで江別市では観光政策にほとんど取り組んでこなかったもので、逆に言うと今回戦略テーマとして選定したことは新規性があると考えます。戦略の中身としては、歴史的な建物あるいは川や森林公園といった自然など、既存の資源を活用していくことと、工場見学など地元の製造業と観光を結び付けた新しい切り口の観光の視点を盛り込んでいます。

- そもそも江別市は観光地ではないが、それを逆にこれからは活かすべきである。市内に既にある観光資源を掘り出して、まちづくりに観光をからめる方法を考えていくべきである。

河西部会長：今後は地元にある既存の観光資源の情報発信をして、それらを結び付けてバスツアーを実施するなどしてネットワーク化していく。そして市外から来る観光客だけではなく、地元の江別市民に楽しんでもらえるものをつくり上げていく。行政とは別組織で、行政と一緒に観光振興のことをいろいろ考えて実行していく市民団体等をつくるということも一つの方策かもしれない。本来であれば観光協会の役割かもしれないが、それで十分ではないということであ

れば検討の余地がある。

○ 観光に関しては民間主体の方がより活性化すると思う。

○ 観光協会を活用するという内容を提言に入れることはできないか。

河西部会長：他の地域では観光協会を NPO 法人化して、民間企業等を巻き込んで活性化している事例もあるので、そのような提案をすることは可能と考える。

○ 長期のソフトに「江別市内観光を札幌市民等へ積極的に営業していく。」とあるが、これは中期の方がよいのではないか。短期で江別市民が地元の観光資源を認識した後に、中期で近隣市にアピールしていくという流れの方がよい。

河西部会長：確かにそのとおりである。中期に移動する。そうすると長期のソフトの取り組みがなくなるので、「中期計画の成果を検証しつつ、継続的に行う。」を追加する。

○ 農家の方が自前でひまわり迷路などをやっているが、そのような個人や団体による集客への取り組みに対して行政の支援が必要ではないか。

河西部会長：では短期のハートづくりに「江別市民が地域内で新たな観光資源の発見、魅力向上、創出、情報発信をしていく活動に対して、支援をしていく」という提案を追加する。

○ この戦略テーマに限ったことではなく、提言書全体をとおして、「江別市」という言葉が入っているが、これは邪魔である。「市」とか「市民」でよい。

河西部会長：その点については後日整理しておく。その他、追加等すべき点はないか。

○ 観光協会の位置付けをはっきりさせた方がよいのではないか。

河西部会長：例えば、一般社団法人や NPO 法人にして独立した組織とし、もっと民間ベースで活用していくということか。ニセコ町では観光協会を株式会社化して町民にも株を保有してもらおうという形でやっている。この例は市民自らが参加する一つの形とも言える。ただ、もしかしたら今まで江別市は観光をそれほど重視していなかったため、観光協会単独では財政的に厳しく、市役所の経済部が事務局をやっているという事情があるのかもしれない。

○ 観光協会が中心ではないかもしれないが、きっかけになるものがないと民間が動きづらいと思う。

○ 新たに独立した組織として観光協会を再編するというのが理想かもしれないが、観光協会の充実という程度の内容で抑えておいてはどうか。

○ 観光協会について提言の中で触れておくことは重要であるので、観光協会を支援するというような内容を追加してはどうか。

河西部会長：「観光協会が中心になり、市民とともに新しい江別観光を創出、マーケティングをしていくために支援していく」という提案を中期のソフトに追加する。

3 その他

河西部会長：今回で地域産業部会としての提言がまとまったが、一度部会長で集まってそ

それぞれの部会で同じようにまとめた提言書を持ち寄って調整する。基本的にはそれぞれの部会で議論されたことが尊重されるが、同じ内容の提言が他の部会でも重複して取り上げられているような場合、もしかしたら統合される部分があるかもしれないことをご了承いただきたい。なお、10月下旬に予定されている全体会議でそれぞれの部会の提言書の報告を行い、それでこの市民会議は終了となる。

○ 次回の全体会議は、各部会長からの報告程度にしないと、そこでまた意見交換などすると收拾がつかなくなるのではないかと懸念する。

河西部会長：ではこの部会の委員からそのようなご意見があったことを、全体会議に向けた部会長の打ち合わせの場で報告しておく。